

口語英語研究 (11) 提案の表現に関して (2)

木戸 充*・Stuart J. SANDERSON**

* 日本獣医生命科学大学 英語学教室

**Sanderson English School

要 約 本稿は木戸・Sanderson (2018) に続けて提案を意味する英語の口語表現についての考察である。本稿で検証する提案の表現は①“Let’s ~”/②“Shall we ~?”/③“Why don’t we ~?”/④“What do you say to ~?”/⑤“How about ~?”/⑥“What about ~?”/⑦“Why don’t you ~?”/⑧“Would you like ~?”/⑨“Do you want ~?”/⑩“Shall I ~?”/⑪“Would you like me ~?”/⑫“Do you want me ~?”である。本稿は12の提案の表現のうち①“Let’s ~”/②“Shall we ~?”/⑩“Shall I ~?”が行動の開始時期を表すこと、“[A] or [B]”とともに使われると②“Shall we ~?”/⑧“Would you like ~?”/⑨“Do you want ~?”/⑩“Shall I ~?”/⑪“Would you like me ~?”/⑫“Do you want me ~?”が選択を求める質問になること、⑥“What about ~?”は相手への非難を込めた反語として使われる点で⑤“How about ~?”と異なることを論証している。なお、木戸・Sanderson (2009-2018) と同様、本稿は日本語を母語とする者と英語を母語とする者の2人の長時間にわたるディスカッションを基にして書かれている。

キーワード : let’s, shall, 提案

日獣生大研報 68, 31-39, 2019.

1. はじめに

本稿は木戸・Sanderson (2018) に続く「口語英語研究 (11) 提案の表現 (2)」である。本稿で検証する提案の表現は①“Let’s ~”/②“Shall we ~?”/③“Why don’t we ~?”/④“What do you say to ~?”/⑤“How about ~?”/⑥“What about ~?”/⑦“Why don’t you ~?”/⑧“Would you like ~?”/⑨“Do you want ~?”/⑩“Shall I ~?”/⑪“Would you like me ~?”/⑫“Do you want me ~?”である。本稿の目的は、12の提案の表現のうち実行されることが決まっていることの開始時期の提案を表すのはどの表現なのか、12の提案の表現が “[A] or [B]” とともに使われるとそれぞれどのような意味になるのか、同意表現として扱われることの多い⑤“How about ~?” と⑥“What about ~?” はどのような点で意味が異なるのか、を検証することである。

第2章では実行されることが決まっていることの開始時期の提案を提案の表現が表す場合について考える。we (話し手と相手) が go (行く) ことが決まっていて “Shall we go?” (行きましょうか) と言うことがある。また、I (話し手) が begin (始める) ことが決まっていて “Shall I begin?” (始めましょうか) と言うことがある。これらの表現は新たなことを提案しているというよりも、実行され

ることが決まっていることの開始時期を提案していると考えられる。これと同じように、他の提案の表現も実行されることが決まっていることの開始時期を表すことはあるのだろうか。

第3章では提案の表現が “[A] or [B]” とともに使われる場合の意味の違いについて検証する。この場合、提案の表現は “[A] か [B] で~しましょうか” のような “[A] or [B]” を具体例とする提案を表すだろうか、それとも、 “[A] と [B] のどちらで~しましょうか” のような “[A] or [B]” を選択肢とする質問を表すだろうか。

第4章は⑤“How about ~?” と⑥“What about ~?” の意味を比べる。この2つはどちらも多様な意味で使われ、多くの場合同意表現として扱われるが、何らかの意味上の相違はあるのだろうか。

なお、煩雑な議論を避けるため、本稿の会話例では提案される行為の意味上の主語が同じ表現同士を比較する。つまり、提案される行為の意味上の主語が同じ we (話し手と相手) である①“Let’s ~”/②“Shall we ~?”/③“Why don’t we ~?”/④“What do you say to ~?”/⑤“How about ~?”/⑥“What about ~?” をそれぞれ比較し、提案される行為の意味上の主語が同じ you (相手) である⑦“Why don’t you ~?”/⑧“Would you like ~?”/⑨“Do you want ~?” を比較し、提案される行為の意味上の主語が同

じ I (話し手) である⑩ “Shall I ~?”/⑪ “Would you like me ~?”/⑫ “Do you want me ~?” をそれぞれ比較する¹⁾。

2. 実行されることが決まっていることの開始時期の提案を提案の表現が表す場合

[ex.1] A と B の会話。A と B は親しい友人同士。

A: ⁽¹⁾ “Kevin, are you doing anything tonight?” (ケビン、今夜は何か予定あるの)

B: ⁽²⁾ “Not really. I think I'll go home and watch TV.” (特にないよ。たぶん家に帰ってテレビを見ると思うよ)

A: ⁽³⁾ “Then, shall we go to the cinema together? The new Spielberg film is on now.”²⁾ (じゃあ、いっしょに映画に行かないか。今新しいスピルバーグの映画をやっているんだよ)

B: ⁽⁴⁾ “Sounds great.” (いいね)

A は [ex.1] (3) “Then, shall we go to the cinema together?” と言っている。これに対して B は [ex.1] (4) “Sounds great.” と応えている。

[ex.2] A と B の会話。A と B は親しい友人同士。

A: ⁽¹⁾ “Dave, it's raining now.” (デーブ、今、雨が降っているよ)

B: ⁽²⁾ “Oh, really?” (えっ、本当?)

A: ⁽³⁾ “I'm leaving in a minute. Shall I drive you home?” (もう帰るところなんだ。車で家まで送って行こうか)

B: ⁽⁴⁾ “Thank you, Steve.” (ありがとう、スティーブ)

A は [ex.2] (3) “Shall I drive you home?” と言っている。これに対して B は [ex.2] (4) “Thank you, Steve.” と応えている。

[ex.1] (3) で A はいっしょに映画を見に行くことを B に提案し、[ex.2] (3) で A は家まで車で送って行くことを B に提案している。会話の状況や応答などから明らかのように、これらの提案は新たなこととして発話時に初めて相手に伝えられている。このような新たな提案は① “Let's ~.”/② “Shall we ~?”/③ “Why don't we ~?”/④ “What do you say to ~?”/⑤ “How about ~?”/⑥ “What about ~?”/⑦ “Why don't you ~?”/⑧ “Would you like ~?”/⑨ “Do you want ~?”/⑩ “Shall I ~?”/⑪ “Would you like me ~?”/⑫ “Do you want me ~?” で表されることがある³⁾。

[ex.1] (3) や [ex.2] (3) のように新たなことが初めて提案される場合とは別に、次の [ex.3] (1) や [ex.4] (1) のように実行されることが決まっていることの開始時期が② “Shall we ~?” や⑩ “Shall I ~?” で提案される場合もある。

[ex.3] 夫婦の会話。夫婦が自宅からいっしょに出かけようとしているところ。

夫: ⁽¹⁾ “Cathy, shall we go?” (キャシー、行こうか)

妻: ⁽²⁾ “Just a moment... OK, let's go.” (ちょっと待って...。いいわ、行きましょう)

夫は [ex.3] (1) “Cathy, shall we go?” と言っている。これに対して妻は [ex.3] (2) “Just a moment... OK, let's go.” と応えている。

[ex.4] 高校の授業での会話。一人の生徒が級友たちの前に立ち、口頭発表を始めようとしているところ。

生徒: ⁽¹⁾ “Miss, shall I begin?” (先生、始めてもいいですか)

教師: ⁽²⁾ “All right, Steve. Go ahead.” (いいわよ、スティーブ。始めなさい)

生徒: ⁽³⁾ “OK. I'm going to explain how the gulf war started in 1990...” (わかりました。1990年にどのようにして湾岸戦争が始まったのかということについて説明します...)

生徒は [ex.4] (1) “Miss, shall I begin?” と言っている。これに対して教師は [ex.4] (2) “All right, Steve. Go ahead.” と応えている。

[ex.3] (1) “Cathy, shall we go?” や [ex.4] (1) “Miss, shall I begin?” では、we (話し手と相手) が go (出かける) ことや I (話し手) が begin (始める) ことが、新たな提案として初めて相手に伝えられているわけではない。会話の状況や応答などから明らかのように、これらは会話が行われる前から決まっていることである。したがって、[ex.3] (1) や [ex.4] (1) では新たなことが初めて提案されているというよりも、「今出かけましょうか」や「今始めましょうか」のような意味で実行されることが決まっていることの開始時期が提案されていると考えられる。

[ex.3] (1) で “Cathy, shall we go?” の代わりに “Cathy, let's go.” と言うのは自然だが、“Cathy, why don't we go?” / “Cathy, what do you say to going?” / “Cathy, how about going?” / “Cathy, what about going?” と言うのは自然ではない。また、[ex.4] (1) で “Miss, shall I begin?” の代わりに “Miss, would you like me to begin?” / “Miss, do you want me to begin?” と言うのは自然ではない。

以上のことから、実行されることが決まっていることの開始時期を提案する場合には、① “Let's ~.”/② “Shall we ~?”/⑩ “Shall I ~?” が使われ、③ “Why don't we ~?”/④ “What do you say to ~?”/⑤ “How about ~?”/⑥ “What about ~?”/⑪ “Would you like me ~?”/⑫ “Do you want me ~?” が使われないと考えられる。

新たなことを初めて提案する場合と実行されることが決

まっていることの開始時期を提案する場合における 12 の提案の表現の相違を [ref.1] にまとめる。[ref.1] において「新たな提案」は [ex.1] (3) “Then, *shall we* go to the cinema together?” や [ex.2] (3) “*Shall I* drive you home?” のように新たなことを初めて提案する場合、「開始時期の提案」は [ex.3] (1) “Cathy, *shall we* go?” や [ex.4] (1) “Miss, *shall I* begin?” のように実行されることが決まっていることの開始時期を提案する場合を示している。また、[ref.1] において○はそれぞれの場合に一般的に使われること、一はそれぞれの場合に一般的に使われないことを示している。

[ref.1] 新たな提案と開始時期の提案		
	新たな提案	開始時期の提案
① “Let’s ~.”	○	○
② “Shall we ~?”	○	○
③ “Why don’t we ~?”	○	—
④ “What do you say to ~?”	○	—
⑤ “How about ~?”	○	—
⑥ “What about ~?”	○	—
⑦ “Why don’t you ~?”	○	—
⑧ “Would you like ~?”	○	—
⑨ “Do you want ~?”	○	—
⑩ “Shall I ~?”	○	○
⑪ “Would you like me ~?”	○	—
⑫ “Do you want me ~?”	○	—

[ex.1] (3) や [ex.2] (3) のように新たなことを初めて提案する場合、12 の提案の表現はいずれも使われる。しかし、[ex.3] (1) や [ex.4] (1) のように実行されることが決まっていることの開始時期を提案する場合には、① “Let’s ~.”/② “Shall we ~?”/⑩ “Shall I ~?” が使われ、③ “Why don’t we ~?”/④ “What do you say to ~?”/⑤ “How about ~?”/⑥ “What about ~?”/⑦ “Why don’t you ~?”/⑧ “Would you like ~?”/⑨ “Do you want ~?”/⑪ “Would you like me ~?”/⑫ “Do you want me ~?” が使われない。これはなぜだろうか。

① “Let’s ~.” は「私たちは~をしましょう」という一方的な提案であり、② “Shall we ~?” や⑩ “Shall I ~?” は「私たちが~をしましょうか」や「私が~をしましょうか」という相手の意向を尋ねる質問である。このような意味の表現で実行されることが決まっていることを改めて伝える場合、示される行為は旧情報であり、示される行為以外のは新情報である。そのため、発話の状況や話し手の

表情などによって “Let’s ~now.” (今私たちは~をしましょう) や “Shall we ~ now?” (今私たちは~をしましょうか) や “Shall I ~ now?” (今私が~をしましょうか) というニュアンスが付加されれば、実行されることが決まっていることの開始時期を提案しているように聞こえることになると考えられる⁴⁾。

一方、③ “Why don’t we ~?”/④ “What do you say to ~?”/⑤ “How about ~?”/⑥ “What about ~?”/⑦ “Why don’t you ~?” は why (なぜ) / what (何) / how (どのように) を使って、「~についてどう思いますか」のような意味で提案に関する相手の意見を尋ねる質問である。また、⑧ “Would you like ~?”/⑨ “Do you want ~?”/⑪ “Would you like me ~?”/⑫ “Do you want me ~?” は like (好む) や want (欲する) を使って、「~を望みますか」のような意味で提案に関する相手の意見を尋ねる質問である。どちらも相手の意見を尋ねる質問であるため、その内容から考えれば提案についての相手の意見がわかっていない場合に限って使われることになる。

[ex.1] (3) や [ex.2] (3) では新たなことが提案されている。新たなことである以上、その提案に関する相手の意見はわかっていないことになる。そのため、この場合には③ “Why don’t we ~?”/④ “What do you say to ~?”/⑤ “How about ~?”/⑥ “What about ~?”/⑦ “Why don’t you ~?” と ⑧ “Would you like ~?”/⑨ “Do you want ~?”/⑪ “Would you like me ~?”/⑫ “Do you want me ~?” が使われると考えられる。

また、[ex.3] (1) や [ex.4] (1) では実行されることが決まっていることの開始時期が提案されている。実行されることが決まっている以上、その提案に関しては相手がすでに了承していることになる。つまり、その提案に関する相手の意見がわかっていることになるため、この場合には③ “Why don’t we ~?”/④ “What do you say to ~?”/⑤ “How about ~?”/⑥ “What about ~?”/⑦ “Why don’t you ~?” と ⑧ “Would you like ~?”/⑨ “Do you want ~?”/⑪ “Would you like me ~?”/⑫ “Do you want me ~?” が使われないと考えられる。

3. “[A] or [B]” とともに使われる場合

[ex.5] 夫妻の会話。

夫: ① “We’re going to Paul’s place this Saturday. Is that right?” (今度の土曜日にポールのところに行くよ。それでいいんだよね)

妻: ② “No, on Sunday.” (違うわよ。日曜日よ)

夫: ③ “OK, Sunday. The buses don’t run very often on Sunday, so *shall we* go by car *or* by train?” (そうか、日曜日だね。日曜日のはあんまりバスが走っていないから、車か電車で行こうか)

妻: ④ “All right.” (いいわよ)

夫は [ex.5] (3) “The buses don’t run very often on Sunday, so *shall we go by car or by train?*” と言っている。これに対して妻は [ex.5] (4) “All right.” と応えている。この応答から [ex.5] (3) “*shall we go by car or by train?*” (車か電車で行こうか) は “by car *or* by train” を具体例とする提案になっていることがわかる。

[ex.5] (3) で “*shall we go by car or by train?*” の代わりに “*let’s go by car or by train.*” と言えば、「車か電車で行こう」という意味になる。また、[ex.5] (3) で “*shall we go by car or by train?*” の代わりに “*why don’t we go by car or by train?*” / “*what do you say to going by car or by train?*” / “*how about going by car or by train?*” / “*what about going by car or by train?*” と言えば、「車か電車で行こうか」という意味になる。前者肯定文で後者は疑問文だが、“by car *or* by train” を具体例とする提案になっている点で前者と後者は同じである。したがって、① “Let’s ~[A] *or* [B].” / ② “Shall we ~[A] *or* [B].” / ③ “Why don’t we ~[A] *or* [B].” / ④ “What do you say to ~[A] *or* [B].” / ⑤ “How about ~[A] *or* [B].” / ⑥ “What about ~[A] *or* [B].” は “[A] *or* [B]” を具体例とする提案になると考えられる。

[ex.6] 夫妻の会話。

夫 : ① “Kim, we’re going to Paul’s place this Saturday. Is that right?” (今度の土曜日にポールのところに行くよね。それでいいんだよね)

妻 : ② “No, on Sunday.” (違うわよ。日曜日よ)

夫 : ③ “OK, Sunday. *Shall we go by car or by train?*” (そうか、日曜日だね。車で行くの、それとも電車で行くの)

妻 : ④ “I think the train is better. If we go by car, we can’t drink.” (電車の方がいいと思うわ。車で行くと飲めないわよ)

夫は [ex.6] (3) “*Shall we go by car or by train?*” と言っている。これに対して妻は [ex.6] (4) “I think the train is better.” と応えている。この応答から [ex.6] (3) “*Shall we go by car or by train?*” (車で行くの、それとも電車で行くの) は “by car *or* by car” を選択肢とする質問になっていることがわかる。

[ex.6] (3) で “*Shall we go by car or by train?*” の代わりに “*Let’s go by car or by train.*” / “*Why don’t we go by car or by train?*” / “*What do you say to going by car or by train?*” / “*How about going by car or by train?*” / “*What about going by car or by train?*” と言うのは自然ではない。したがって、② “Shall we ~[A] *or* [B].” は “[A] *or* [B]” を選択肢とする質問になり、① “Let’s ~[A] *or* [B].” / ③ “Why don’t we ~[A] *or* [B].” / ④ “What do you say to ~[A] *or* [B].” / ⑤ “How about ~[A] *or* [B].” / ⑥ “What about ~[A]

or [B].” は “[A] *or* [B]” を選択肢とする質問にならないと考えられる⁵⁾。

[ex.7] A と B の会話。A と B は同じ会社に勤める同僚。

A: ① “Peter, can I talk to you a minute?” (ピーター、ちょっと話せるかな)

B: ② “Sorry, I’m going into a meeting. *Would you like to call me tonight or tomorrow, please?*” (ごめん、会議に行くんだ。今夜か明日に電話して欲しいかな)

A: ③ “OK.” (わかったよ)

B は [ex.7] (2) “*Would you like to call me tonight or tomorrow, please?*” と言っている。これに対して A は [ex.7] (3) “OK.” と応えている。この応答から [ex.7] (2) “*Would you like to call me tonight or tomorrow, please?*” (今夜か明日に電話して欲しいかな) は “tonight *or* tomorrow” を具体例とする提案になっていることがわかる。

[ex.7] (2) で “*Would you like to call me tonight or tomorrow, please?*” の代わりに “*Do you want to call me tonight or tomorrow, please?*” / “*Why don’t you call me tonight or tomorrow, please?*” と言えば、同じように「今夜か明日に電話して欲しいかな」という意味になる。したがって、⑦ “Why don’t you ~[A] *or* [B].” / ⑧ “Would you like ~[A] *or* [B].” / ⑨ “Do you want ~[A] *or* [B].” は “[A] *or* [B]” を具体例とする提案になると考えられる。

[ex.8] A と B の会話。A と B は親しい友人同士。

A: ① “*Would you like tea or coffee?*” (紅茶とコーヒーのどっちがいいの)

B: ② “Coffee, please. Thank you.” (コーヒーがいいな。ありがとう)

A は [ex.8] (1) “*Would you like tea or coffee?*” と言っている。これに対して B は [ex.8] (2) “Coffee, please.” と応えている。この応答から [ex.8] (1) “*Would you like tea or coffee?*” (紅茶とコーヒーのどっちがいいの) は “tea *or* coffee” を選択肢とする質問になっていることがわかる。

[ex.8] (1) で “*Would you like tea or coffee?*” の代わりに “*Do you want tea or coffee?*” と言えば、同じように「紅茶とコーヒーのどっちがいいの」という意味になる。しかし、[ex.8] (1) で “*Would you like tea or coffee?*” の代わりに “*Why don’t you have tea or coffee?*” と言うのは自然ではない。したがって、⑧ “Would you like ~[A] *or* [B].” / ⑨ “Do you want ~[A] *or* [B].” は “[A] *or* [B]” を選択肢とする質問になり、⑦ “Why don’t you ~[A] *or* [B].” は “[A] *or* [B]” を選択肢とする質問にならないと考えられる。

[ex.9] A と B の会話。A と B は同じ会社に勤める同僚。

- A: ⁽¹⁾ “I have a meeting this afternoon. I don’t think I can call you today.” (今日の午後は会議があるんだ。今日は君に電話をかけられないと思うんだ)
 B: ⁽²⁾ “*Shall I call you tonight or tomorrow?*” (今晚か明日に君に電話しようか)
 A: ⁽³⁾ “Oh, that’d be good. Thanks, Ben.” (ああ、そうしてくれるといいね。ありがとう、ベン)

B は [ex.9] (2) “*Shall I call you tonight or tomorrow?*” と言っている。これに対して A は [ex.9] (3) “Oh, that’d be good. Thanks, Ben.” と応えている。この応答から [ex.9] (2) “*Shall I call you tonight or tomorrow?*” (今晚か明日に君に電話しようか) は “tonight or tomorrow” を具体例とする提案になっていることがわかる。

[ex.9] (2) で “*Shall I call you tonight or tomorrow?*” の代わりに “*Would you like me to call you tonight or tomorrow?*” や “*Do you want me to call you tonight or tomorrow?*” と言えば、同じように「今晚か明日に君に電話しようか」という意味になる。したがって、⑩ “*Shall I ~[A] or [B]?*” / ⑪ “*Would you like me ~[A] or [B]?*” / ⑫ “*Do you want me ~[A] or [B]?*” は “[A] or [B]” を具体例とする提案になると考えられる。

[ex.10] A と B の会話。A と B は同じ会社に勤める同僚。

- A: ⁽¹⁾ “George, could you call me about this matter later?” (ジョージ、この件に関しては後で電話してくれるかな)
 B: ⁽²⁾ “All right. *Shall I call you tonight or tomorrow?*” (わかったよ。今晚電話しようか、それとも明日電話しようか)
 A: ⁽³⁾ “Tomorrow will be good. I’m having dinner with some clients tonight.” (明日がいいな。今晚はお客さんと夕食を食べるんだ)

B は [ex.10] (2) “*Shall I call you tonight or tomorrow?*” と言っている。これに対して [ex.10] (3) で A は “Tomorrow will be good.” と応えている。この応答から [ex.10] (2) “*Shall I call you tonight or tomorrow?*” (今晚電話しようか、それとも明日電話しようか) は “tonight or tomorrow” を選択肢とする質問になっていることがわかる。

[ex.10] (2) で “*Shall I call you tonight or tomorrow?*” の代わりに “*Would you like me to call you tonight or tomorrow?*” / “*Do you want me to call you tonight or tomorrow?*” と言えば、同じように「今晚電話しようか、それとも明日電話しようか」という意味になる。したがっ

て、⑩ “*Shall I ~[A] or [B]?*” / ⑪ “*Would you like me ~[A] or [B]?*” / ⑫ “*Do you want me ~[A] or [B]?*” は “[A] or [B]” を選択肢とする質問になると考えられる。

提案の表現が “[A] or [B]” とともに使われる場合の意味の相違を [ref.2] にまとめる。[ref.2] において「具体例を伴う提案」は [ex.5] (3) “*shall we go by car or by train?*” や [ex.7] (2) “*Would you like to call me tonight or tomorrow, please?*” や [ex.9] (2) “*Shall I call you tonight or tomorrow?*” のように “[A] or [B]” を具体例とする提案になること、「選択を求める質問」は [ex.6] (3) “*Shall we go by car or by train?*” や [ex.8] (1) “*Would you like tea or coffee?*” や [ex.10] (2) “*Shall I call you tonight or tomorrow?*” のように “[A] or [B]” を選択肢とする質問になることを示している。また、[ref.2] において○はそれぞれの意味で使われること、—はそれぞれの意味で使われないことを示している。

[ref.2] “[A] or [B]” を用いる場合の意味の相違		
	具体例を伴う提案	選択を求める質問
① “Let’s ~[A] or [B].”	○	—
② “Shall we ~[A] or [B]?”	○	○
③ “Why don’t we ~[A] or [B]?”	○	—
④ “What do you say to ~[A] or [B]?”	○	—
⑤ “How about ~[A] or [B]?”	○	—
⑥ “What about ~[A] or [B]?”	○	—
⑦ “Why don’t you ~[A] or [B]?”	○	—
⑧ “Would you like ~[A] or [B]?”	○	○
⑨ “Do you want ~[A] or [B]?”	○	○
⑩ “Shall I ~[A] or [B]?”	○	○
⑪ “Would you like me ~[A] or [B]?”	○	○
⑫ “Do you want me ~[A] or [B]?”	○	○

第 2 章で検証したように① “Let’s ~.” / ② “Shall we ~?” / ③ “Why don’t we ~?” / ④ “What do you say to ~?” / ⑤ “How about ~?” / ⑥ “What about ~?” / ⑦ “Why don’t you ~?” / ⑧ “Would you like ~?” / ⑨ “Do you want ~?” / ⑩ “Shall I ~?” / ⑪ “Would you like me ~?” / ⑫ “Do you want me ~?” はいずれも新たな提案を表すことがある。したがって、これらの表現が “[A] or [B]” とともに使われ

ば、「[A] や [B] で~しましょう」、「[A] や [B] で~しましょうか」、「[A] や [B] で~ませんか」のような意味になり、「[A] or [B]」を具体例とする提案になるのは明らかである。

一方、「[A] or [B]」を選択肢とする質問としては②“Shall we ~?”/⑧“Would you like ~?”/⑨“Do you want ~?”/⑩“Shall I ~?”/⑪“Would you like me ~?”/⑫“Do you want me ~?”が使われ、①“Let's ~.”/③“Why don't we ~?”/④“What do you say to ~?”/⑤“How about ~?”/⑥“What about ~?”/⑦“Why don't you ~?”は使われない。これはなぜだろうか。

①“Let's ~.”は「~しましょう」という意味の肯定文であり、「~ですか」という質問ではない。そのため、①“Let's ~[A] or [B].”が“A or [B]”を選択肢とする質問にならないのは明らかである。

③“Why don't we ~?”/④“What do you say to ~?”/⑤“How about ~?”/⑥“What about ~?”/⑦“Why don't you ~?”は why (なぜ) / what (何) / how (どのように) と尋ねる疑問文である。このような問いかけは二者択一を求める「[A] と [B] のどちらにしますか」という意味の質問と両立しえない。したがって、③“Why don't we ~[A] or [B]?”/④“What do you say to ~[A] or [B]?”/⑤“How about ~[A] or [B]?”/⑥“What about ~[A] or [B]?”/⑦“Why don't you ~[A] or [B]?”は“A or [B]”を選択肢とする質問にならないと考えられる。

②“Shall we ~?”/⑧“Would you like ~?”/⑨“Do you want ~?”(私たちは~しましょうか) / ⑩“Shall I ~?”/⑪“Would you like me ~?”/⑫“Do you want me ~?”は shall/would/do から始まる疑問文である。これらは why (なぜ) / what (何) / how (どのように) という問いかけではないため、二者択一を求める「[A] と [B] のどちらにしますか」という意味の質問と対立しない。したがって、②“Shall we ~[A] or [B]?”/⑧“Would you like ~[A] or [B]?”/⑨“Do you want ~[A] or [B]?”/⑩“Shall I ~[A] or [B]?”/⑪“Would you like me ~[A] or [B]?”/⑫“Do you want me ~[A] or [B]?”は“A or [B]”を選択肢とする質問になると考えられる。

4. “How about ~?” と “What about ~?” の意味の相違

[ex.11] A と B は高校生で親しい友人。

A: (1) “Stephan, have you done the paper for the geography class?” (ステファン、地理の授業のレポートは終わったの)

B: (2) “No, not yet. *How about you?*” (いや、まだだよ。君はどうなの)

A: (3) “I'm almost done.” (あともう少しで終わるんだ)

[ex.11] (1) で A は B に “Stephan, have you done the paper for the geography class?” と言っている。これに対

して B は [ex.11] (2) “*How about you?*” と言っている。これは “Have you done the paper for the geography class?” (君は地理の授業のレポートは終わったの) と同じ意味の質問である。このように、⑤ “How about ~?” は相手の質問と同じ内容の質問を尋ね返す場合に使われることがある。

[ex.12] A は若い女性、B は A の母親。店で A のドレスを選んでいるときの会話。A がドレスを取り上げて B に見せているところ。

A: (1) “Mum, *how about* this one?” (お母さん、これはどうかな)

B: (2) “Well... isn't that yellow a little too bright? I think this blue one will look good on you.” (そうね... その黄色は少し派手すぎないかな。この青いのがあなたに似合うと思うわ)

A は B に [ex.12] (1) “Mum, *how about* this one?” と言っている。これは “Mum, what do you think of this one?” (お母さん、これについてどう思う?) と同じ意味の質問である。このように、⑤ “How about ~?” は about 以下に関して相手の意見を求める場合に使われることがある。

[ex.13] A と B がテレビでサッカーの試合を見ているときの会話。A と B は親しい友人同士。サッカー選手の Cristiano が 1 試合で 4 得点したことをテレビ中継が伝えているところ。

A: (1) “*How about* that? Cristiano has scored four goals tonight!” (すごいよね! クリスチアーノは今晚 4 得点したよ!)

B: (2) “Yes. He has been fantastic.” (そうだね。彼はすごいね)

A は [ex.13] (1) “*How about* that?” と言っている。これは “What do you think of that?” (あれについてどう思いますか) という意味の質問だが、“How wonderful that is!” (あれは何と素晴らしいことなのか) という感嘆や驚きが込められている。このように、⑤ “How about ~?” は感嘆や驚きを表す場合に使われることがある。

[ex.14] 親しい友人同士である A と B の会話。

A: (1) “Hey, Steve.” (ねえ、ステイブ)

B: (2) “Yes?” (うん、何?)

A: (3) “How about helping me with my homework?
There are some math questions I can’t answer by
myself.” (宿題を手伝ってくれないかな。一人では
解けない数学の問題があるんだ)
B: (4) “All right. Let me see them.” (いいよ。問題を見
せて)

A: (3) “I heard you were with Lucy last night.” (昨日
の晩、あなたがルーシーといっしょだったって聞いた
んだけど)
B: (4) “Yes, I saw her last night. What about it?” (そ
うだよ、昨日の晩に彼女に会ったよ。それが何だっ
ていうんだよ)

A は B に [ex.14] (3) “How about helping me with my homework?” と言っている。これを字句通りに訳せば “helping me with my homework (私の宿題を手伝うことは) how about (どうなのか)” という質問になるが、その質問には “Could you help me with my homework?” (宿題を手伝ってませんか) という相手への依頼が込められている。このように、⑤ “How about ~?” は相手への依頼を表す場合に使われることがある⁶⁾。

[ex.11] (2)、[ex.12] (1)、[ex.13] (1)、[ex.14] (3) では⑤ “How about ~?” の代わりに⑥ “What about ~?” を使って “What about you?”、“Mum, what about this one?”、“What about that!”、“What about helping me with my homework?” と言っても同じ内容を表すことになる。このように⑤ “How about ~?” と⑥ “What about ~?” は同意表現になることが多いが、次の [ex.15] (2) や [ex.16] (4) のように⑥ “What about ~?” を⑤ “How about ~?” で言い換えることができないこともある。

[ex.15] 夫妻の会話。

夫: (1) “Susan, I don’t think I can get back home early tonight.” (スーザン、今晩は早くは帰れないと思うんだ)
妻: (2) “But what about your promise? You said we were going to have a birthday party for Ellen.” (でも、あなたの約束はどうなるの。エレンのための誕生日パーティーをやろうってあなたが言ったのよ)
夫: (3) “I’m sorry. My client said he really needs to see me this evening.” (ごめん。お客さんが今晩どうしても僕に会う必要があるって言うんだ)

夫は妻に [ex.15] (1) “Susan, I don’t think I can get back home early tonight.” と言っている。これに対して妻は [ex.15] (2) “But what about your promise?” と言っている。

[ex.16] 恋人同士である A と B の会話。

A: (1) “Peter, where were you last night?” (ピーター、昨日の夜はどこにいたの)
B: (2) “Well… I was with a friend.” (ええと… 友達といっしょだったよ)

A は [ex.16] (3) “I heard you were with Lucy last night.” と言っている。これに対して B は [ex.16] (4) “Yes, I saw her last night. What about it?” と言っている。

[ex.15] (2) “But what about your promise?” や [ex.16] (4) “What about it?” は表面上 “But what happened to your promise?” (でもあなたの約束はどうなったのか) や “What’s the problem with it?” (そのことについての問題は何か) という疑問を意味しているが、その疑問が反語になって “You can’t break your promise.” (あなたは約束を破ることはできない) や “There is no problem with it.” (そのことについては何も問題は無い) という否定を含意している。

[ex.15] (2) や [ex.16] (2) では “But what about your promise?” や “What about it?” の代わりに “But how about your promise?” や “How about it?” と言うのは自然ではない。したがって、[ex.15] (2) や [ex.16] (2) のような反語では⑥ “What about ~?” が使われ、⑤ “How about ~?” が使われないことになる。

“How about ~?” と “What about ~?” の意味の相違を [ref.3] にまとめる。[ref.3] において 「(a) 質問」 は [ex.11] (2) “How about you?” のように相手の質問と同じ内容の質問を尋ね返す場合、「(b) 意見」 は [ex.12] (1) “Mum, how about this one?” のように about 以下のことに関して相手の意見を求める場合、「(c) 感嘆」 は [ex.13] (1) “How about that!” のように感嘆や驚きを表す場合、「(d) 依頼」 は [ex.14] (3) “How about helping me with the homework?” のように相手への依頼を表す場合、「(e) 反語」 は [ex.15] (2) “But what about your promise?” や [ex.16] (4) “What about it?” のように反語になる場合を示している。また、○はそれぞれの場合に使われること、一はそれぞれの場合に使われないことを示している。

[ref.3] “How about ~?” と “What about ~?” の意味の相違					
	(a) 質問	(b) 意見	(c) 感嘆	(d) 依頼	(e) 反語
⑤ “How about ~?”	○	○	○	○	—
⑥ “What about ~?”	○	○	○	○	○

⑤ “How about ~?” と⑥ “What about ~?” はどちらも (a) 質問、(b) 意見、(c) 感嘆、(d) 依頼を表すことがある。ただし、どの意味においても⑥ “What about ~?” の方が⑤ “How about ~?” より直接的で率直な質問にな

る。これは how (どのような) という問いかけよりも what (何) という問いかけの方がより直接的で率直な響きがあるためであると考えられる。

また、⑤ “How about ~?” は (e) 反語にならないが、⑥ “What about ~?” は (e) 反語になることがある。このように⑥ “What about ~?” が (e) 反語を含意するほどの強い疑問になるのも、how (どのような) という問いかけよりも what (何) という問いかけの方がより直接的で率直な響きがあるためであると考えられる。

5. 結 論

本稿は木戸・Sanderson (2018) に続けて 12 の提案の表現 ① “Let’s ~.”/ ② “Shall we ~?”/ ③ “Why don’t we ~?”/ ④ “What do you say to ~?”/ ⑤ “How about ~?”/ ⑥ “What about ~?”/ ⑦ “Why don’t you ~?”/ ⑧ “Would you like ~?”/ ⑨ “Do you want ~?”/ ⑩ “Shall I ~?”/ ⑪ “Would you like me ~?”/ ⑫ “Do you want me ~?” が表す意味について検証した。

その結果、12 の提案の表現のうち① “Let’s ~.”/ ② “Shall we ~?”/ ⑩ “Shall I ~?” が行動の開始時期を表すことがわかった。また、12 の提案の表現が “[A] or [B]” とともに使われると、② “Shall we ~?”/ ⑧ “Would you like ~?”/ ⑨ “Do you want ~?”/ ⑩ “Shall I ~?”/ ⑪ “Would you like me ~?”/ ⑫ “Do you want me ~?” が選択を求める質問になることがわかった。さらに、同義語として扱われることの多い⑤ “How about ~?” と⑥ “What about ~?” を比べると、後者は相手への非難を含めた反語として使われる点で前者と異なることがわかった。

注 釈

- 1) 提案される行為の主語に関しては木戸・Sanderson (2018) の第 3 章を参照。
- 2) イギリス英語では「映画を見に行く」という意味で “go to the cinema” と言うことが多く、アメリカ英語では同じ意味で “go to the movies” と言うことが多い。このように同じ意味で異なる表現が使われる場合、本稿ではイギリス英語で多く用いられる表現を用いることにする。
- 3) 木戸・Sanderson (2018) の第 1 章を参照。
- 4) now などを添えて発話の時点で行うことを明示すれば、提案の表現はいずれも実行されることが決まっていることの開始時期を表すことになる。例えば、[ex.3] (1) で “Let’s go now.” と言えば「今出かけよう」という意味になり、[ex.3] (1) で “Shall we go now?/ “Why don’t we go now?/ “What do you say to going now?/ “How about going now?/ “What about going now?” と言えば「今出かけようか」という意味になる。また、[ex.4] (1) で “Shall I begin now?/ “Would you like me to begin now?/ “Do you want me to begin now?” と言えば「今始めましょうか」という意

味になる。ただし、これらの表現では新情報である now が強調されるため、開始時期が提案されているというよりも、「後ではなく今出かける」や「後ではなく今始める」という予定の変更が新たに提案されているとも考えられる。

- 5) ② “Shall we ~[A] or [B]?” が “[A] or [B]” を具体例とする提案になる場合には [A] と [B] の語尾が両方とも上げ調子で発音される。一方、② “Shall we ~[A] or [B]?” が “[A] or [B]” を選択肢とする質問になる場合には、[A] の語尾が上げ調子で発音され、[B] の語尾が下げ調子で発音される。このような意味と発音の相違は② “Shall we ~[A] or [B]?”/ ⑧ “Would you like ~[A] or [B]?”/ ⑨ “Do you want ~[A] or [B]?”/ ⑩ “Shall I ~[A] or [B]?”/ ⑪ “Would you like me to ~[A] or [B]?”/ ⑫ “Do you want me to ~[A] or [B]?” においても同様である。
- 6) 相手に依頼するときには “Could you help me with my homework, please?” のような丁寧な話し方をするのが一般的である。そのため、相手に宿題を手伝ってほしいという気持ちを込めて “How about helping me with my homework?” と言えば、親しい人にしか許さないうなかなり気軽に直接的な話し方をしていることになる。

参 考 文 献

- ・荒木一雄・安井稔 監修『現代英文法辞典』(1992). 三省堂
- ・石橋幸太郎・広瀬泰三・伊藤健三・高梨健吉・鳥居次好・渡辺藤一 監修『英語語法大辞典』(1990). 大修館
- ・安藤貞夫・福村虎治郎・川上道生・小西友七・三浦新市・空西哲郎・渡辺登士 監修『続・英語語法大辞典』(1986). 大修館
- ・安藤貞夫・福村虎治郎・川上道生・小西友七・三浦新市・空西哲郎・渡辺登士 監修『英語語法大辞典第 3 集』(1989). 大修館
- ・大塚高信 監修『新英文法辞典』(1970). 三省堂
- ・大塚高信・岩崎民平・中島文雄 監修『英文法シリーズ』(1976). 研究社
- ・小西友七 監修『英語基本動詞辞典』(1980). 研究社出版
- ・木戸充・Sanderson, S. J. (2009). 「口語英語研究 (1) : 人名及び人名相当語句に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』58, pp.142-154
- ・木戸充・Sanderson, S. J. (2010). 「口語英語研究 (2) : 人と会ったときの挨拶表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』59, pp.113-124
- ・木戸充・Sanderson, S. J. (2011). 「口語英語研究 (3) : 人名及び人名相当語句に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』60, pp.105-114
- ・木戸充・Sanderson, S. J. (2012). 「口語英語研究 (4) : Christmas や New Year に関わる表現及び Nice to meet you や Nice meeting you などの挨拶表現に関

- して」『日本獣医生命科学大学研究報告』61, pp.71-86
- ・ 木戸充・Sanderson, S. J. (2013). 「口語英語研究 (5) : 人と別れるときの挨拶表現句に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』62, pp.106-119
 - ・ 木戸充・Sanderson, S. J. (2014). 「口語英語研究 (6) : 謝罪の表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』62, pp.89-97
 - ・ 木戸充・Sanderson, S. J. (2015). 「口語英語研究 (7) : 欲求・期待・願望の表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』63, pp.63-75
 - ・ 木戸充・Sanderson, S. J. (2016). 「口語英語研究 (8) : 命令や依頼の表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』64, pp.89-97
 - ・ 木戸充・Sanderson, S. J. (2017). 「口語英語研究 (9) : 許可の表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』65, pp.21-31
 - ・ 木戸充・Sanderson, S. J. (2018). 「口語英語研究 (10) : 提案の表現に関して (1)」『日本獣医生命科学大学研究報告』66, pp.44-55
 - ・ *Collins Cobuild English Language Dictionary* (1987), Collins Sons & Co Ltd
 - ・ *Longman Dictionary of American English* (1983), Pearson Education Limited
 - ・ Hornby, A. S. *Oxford Advanced Learner's Dictionary* (2000), Oxford University Press

Study of Colloquial English (11): Concerning Expressions Showing Suggestion

*Mitsuru KIDO / **Stuart J. SANDERSON

*Laboratory of the English Language
Nippon Veterinary and Life Science University
**Sanderson English School

Abstract

Following Kido and Sanderson's study (2018), this one discusses the twelve English expressions which show suggestion: ① "Let's ~." / ② "Shall we ~?" / ③ "Why don't we ~?" / ④ "What do you say to ~?" / ⑤ "How about ~?" / ⑥ "What about ~?" / ⑦ "Why don't you ~?" / ⑧ "Would you like ~?" / ⑨ "Do you want ~?" / ⑩ "Shall I ~?" / ⑪ "Would you like me ~?" / ⑫ "Do you want me ~?" And this study proves that ① "Let's ~." / ② "Shall we ~?" / ⑩ "Shall I ~?" of the twelve expressions are used to show when to start actions, that ② "Shall we ~?" / ⑧ "Would you like ~?" / ⑨ "Do you want ~?" / ⑩ "Shall I ~?" / ⑪ "Would you like me ~?" / ⑫ "Do you want me ~?" of the twelve expressions mean questions requesting choices when they are used with "[A] or [B]", and that there is a difference between ⑤ "How about ~?" and ⑥ "What about ~?" in that the latter is used as an ironic question meaning criticism while the former isn't. As in Kido and Sanderson's studies (2009-2018), this one is based on discussions between two native speakers of English and Japanese.

Key words : let's, shall, suggestion

Bull. Nippon Vet. Life Sci. Univ., 68, 31-39, 2019.